

高校生を対象に工場見学会を開催

群馬県生コンクリート(工)

6月18日、館林市・上州生コン(株)館林工場において、県立館林商工高等学校の学生を迎え見学会を開催した。

今回の見学会は、同校の課題研究グループが業界の魅力発掘に取り組む授業の一環で開催したものの。学生13名が工場内を見学し、材料の砂がベルトコンベヤーで運ばれる様子や生コンクリートが製造される工程を見て学び、日常生活を支える生コンクリート製造の現場に触れた。

組合では、今回の工場見学会から得た高校生目線の意見を業界のPRや人材確保策へ役立てていく予定。



従業員の案内で工場内を見学する学生たち

山林内の不法投棄のゴミを撤去

吾妻東部環境保全事業(協)

6月27日、中之条町の山林内において、組合員13名により不法投棄されたゴミの撤去を実施した。家電や寝具、食品の容器など2トントラック2台分のゴミを収集し、地域の美化に貢献した。



回収作業をする組合員



また、中之条町は不法投棄に関する注意喚起の看板を現地に設置。無償で回収作業をした同組合は、中之条町より感謝状が贈呈された。

電気使用安全月間における 啓発キャラバン隊が巡回活動を実施 群馬県電気工事(工)

8月1日、前橋市・県庁昭和庁舎前において、電気使用安全月間における啓発キャラバン隊出発式を開催した。

電気使用安全月間とは、全国で毎年8月に実施される電気の正しい使い方の啓発や安全対策を周知するためのキャンペーン期間のこと。

この安全月間に併せて、当組合では啓発キャラバン隊を編成した。

出発式の中で中島正幸理事長は、安全月間の計画趣旨と組合の取組みを説明したうえで、「事故発生率の高い夏場の時期に安全キャンペーンを行うことが重要」と挨拶。その後、県と趣意書を交わし、電気の安全使用と事故の防止を呼びかけるために、西毛地区の巡回活動を実施した。



出発式で挨拶する中島理事長

Local Area News

ものづくりフェスティバル2024 inGメッセ群馬に出展

(一社)群馬県農工業連合会
群馬県室内装飾事業(協)
群馬県板金(工)
群馬県塗装看板(協)

7月31日と8月1日の両日、高崎市・Gメッセ群馬で、県内の技能関係団体が様々な体験の場を提供する「ものづくりフェスティバル2024inGメッセ群馬」が開催され、本会会員より4団体が出展した。

本イベントは、4年に1度開催されていたが、コロナ禍の影響で8年ぶりの開催となった。

各ブースは、夏休みを過ごす親子連れを中心に賑わい、ものづくりや作業に熱心に取り組む子供たちを職人が丁寧にサポートした。

(一社)群馬県農工業連合会は、開会式で勇壮な木遣り(きやり)を披露し、イベントの開会を盛り上げた。(下)



群馬県室内装飾事業(協)は、内装材や壁紙として利用している和紙をガラス容器に貼り、オリジナルのインテリアグッズを作る「和紙キャンドルシェードづくり体験」をサポートした。(右上)完成したキャンドルシェード(同写真内右下)



群馬県板金(工)は、銅板をたたいて凹凸を作り、デザインを浮かせ、神社・仏閣に用いられる「銅板彫刻の疑似体験」を実施。(下)



群馬県塗装看板(協)は、「だるま・まねき猫の色塗り体験」を企画。各自で色づくりと塗装の楽しさを体感してもらった。(下)



環境問題への取組みに参加

草津温泉旅館(協)

同組合は、県が発行する「グリーンボンド」を購入し、環境問題への取組みに参加した。

「グリーンボンド」とは、企業や地方自治体等が、国内外の地球温暖化をはじめとする環境問題の解決を目指す事業に要する資金を調達するために発行する債券のこと。

草津町で多くのゴミが輩出されていることから、環境問題に取り組みつつ、県に還元できる方策として「グリーンボンド」の購入を決めた。